

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【福祉体験】	4年児童が、総合的な学習の時間に『わがまち「とようら」やさしさ発見』というテーマを設定し、視覚障害者体験・高齢者体験を行った。まず、体験する人、介助する人、撮影する人、記録する人に分かれてグループ活動に取り組み、次に、体験して考えたことや今後知りたいこと等をまとめた。その結果、高齢者や体が不自由な人にとって不便な場所、介助する方の工夫や苦労を理解することができた。続いて、家や学区内にあるバリアフリーについて調べ、点字ブロック等のメリットや誰もが暮らしやすい環境作りの工夫を考えた。調べ考えたことについては、プレゼンテーションにまとめ、同学年や3年児童に向けて発表した。 成果 福祉体験で高齢者疑似体験セットを装着し階段の上り下りの活動を行うことを通して、児童自身が「怖かったが、友達の手や声で安心できた」ことや「介助する人の伝え方が難しい」ことに気付くことができた。また、障害のあることや高齢に伴う心身の変化やその生活について理解を深めることができた。さらに、相手のことを考えて行動する大切さに気付き、自分たちにできることを考えることができた。 課題 今年度も、車椅子を借用・運搬する諸条件が整わなかったため、車椅子の体験を見送った。実施内容を引き続き検討していく必要がある。体験後についても、全ての人に対して思いやりの心をもって関わろうとする態度を育む機会を設定する必要がある。
2 実践2 【人権集会】	人権についての知的理解を深め、人権感覚を高めることを目指した「いいとこみつけ！とよっこ人権集会」をJRC委員会が中心となって行った。各学級では、集会前に人権尊重の大切さについて話し合い、スローガンを作成した。当日は、性的マイノリティの理解促進とアンコンシャスバイアスについて説明するために委員会児童が「青いラジコンカー」という物語を朗読した。また、自分や友達のよさに目を向けることやお互いを尊重すること等を発表し、「こんなときどうする？」という人権クイズを出題した。その後、「いいとこみつけ！わたしたちのクラスのスローガン」をクラスの代表者が発表するとともに校長が、集会内容と学校目標のつながりについて説明した。終末に委員会児童による伴奏の温かなメロディーと全児童の体育館に広がる優しい歌声で「世界が一つになるまで」の合唱をした。 成果 人権クイズやスローガン発表では、どの学年も興味をもって聞くことができた。また、児童の振り返り用紙には、男女の差別をしないことや自他のよさを認め合っていきたいという記述があった。スローガンを各学年のフロアに掲示し、集会後も学校全体で人権を大切にしようとする意識を高めることにつながった。 課題 12月に集会を実施したため、感染症対策等の対応に迫られた。人権意識を高めることができる内容を考慮しつつ、オンラインによる実施や実施期間の変更についても検討する必要がある。